

## 『大原社会問題研究所雑誌』 2018 年度総目次

- (1) 2009～2017年度の総目次については各翌年度4月号を参照されたい。
- (2) 『資料室報』第1号～『大原社会問題研究所雑誌』第599・600号までの総目次については、2008年10・11月号(No.599・600)を参照されたい。
- (3) なお、大原社会問題研究所Webサイト(<http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/oz/>)でも、バックナンバー総目次を掲載している。さらに、1997年4月号以降については、雑誌本体のオンライン・ジャーナル化、Web上での公開を行っている。

### 2018年4月号 No.714

【特集】第30回国際労働問題シンポジウム 仕事の未来とグリーン・ジョブ	
特集にあたって	藤原千沙
2017年のILO総会について	田口晶子
ILOの取組み——太平洋島嶼国におけるグリーン・ジョブの促進活動	佐々木聡
政府の取組み	吉村紀一郎
労働者側の取組み——気候変動と雇用、公正な移行の実現と連合の取組み	小熊 栄
使用者側の取組み	森田清隆
地域再生のためのグリーン・ジョブ——コミュニティ・パワーの実践から考える	西城戸誠
環境規制と地球環境問題について——技術開発や公害対策史の視点から	伊藤 康
パネルディスカッション	
参考資料	
■書評と紹介	
新倉貴仁著『「能率」の共同体——近代日本のミドルクラスとナショナリズム』	佐藤成基
玉井金五・杉田菜穂著『日本における社会改良主義の近現代像——生存への希求』	富江直子
社会・労働関係文献月録	
『大原社会問題研究所雑誌』2017年度総目次	
所報	2017年12月

### 2018年5月号 No.715

【特集】経営者団体と労使関係	
特集にあたって	高瀬久直
安倍政権の社会・労働政策と経営者団体	菊池信輝
春闘と経営者団体——日経連・日本経団連とIMF-JCを中心に	高瀬久直
ドイツの使用者団体と労働協約システム——小売業部門を対象に	岩佐卓也
■論文	
戦時期の女性労働者動員政策と産業報国会——赤松常子の思想に着目して	堀川祐里
■書評と紹介	
西澤栄一郎／喜多川進編著『環境政策史——なぜいま歴史から問うのか』	小堀 聡
上村泰裕著『福祉のアジア——国際比較から政策構想へ』	相馬直子
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 春季生活闘争(春闘)と経営者団体	高瀬久直
所報	2018年1月

2018年6月号 No.716

<b>【特集】福祉の契約主義と労働・家族・ジェンダー</b>	
特集にあたって	原 伸子
公正な条件と公正な結果？ ——ニューレイバー、福祉の契約主義および社会的態度に関する考察	ダニエル・セージ ／藤田理雄訳
イギリスにおける福祉改革と家族 ——「困難を抱えた家族プログラム (Troubled Families Programme)」とジェンダー	原 伸子
<b>■証言：戦後社会党・総評史</b>	
もう一つの日本社会党史 ——党中央本部書記局員としてマルクス・レーニン主義の党を追求 細川正氏に聞く	
<b>■書評と紹介</b>	
米澤旦著『社会的企業への新しい見方——社会政策のなかのサードセクター』	桜井政成
衛藤幹子著『政治学の批判的構想——ジェンダーからの接近』	辻 由希
安藤究著『祖父母であること——戦後日本の人口・家族変動のなかで』	筒井淳也
<b>社会・労働関係文献月録</b>	
月例研究会 近江絹糸人権争議直後の賃金体系をめぐる労使交渉 ——性別の違いに焦点を当てて	梅崎 修
所報	2018年2月

2018年7月号 No.717

<b>【特集】生活保護における自立支援の成果と今後の課題——福祉事務所の現場から</b>	
特集にあたって	布川日佐史
「自立支援プログラム」で福祉事務所現場はどう変わったか	大川昭博
生活保護革命の途上にて——“かけがえのない私”の獲得と生きる場を求めて	榑部武俊
生活保護自立支援プログラム導入時の議論と到達点 ——三つの自立が生活保護行政に与えた影響	池谷秀登
<b>■読書ノート</b>	
ナチ体制下の中間層をいかに捉えるか——柳澤治著『ナチス・ドイツと中間層 ——全体主義の社会的基盤』をめぐる一読書ノート	芝 健介
<b>■書評と紹介</b>	
ガイ・スタンディング著／岡野内正監訳 『プレカリアート——不平等社会が生み出す危険な階級』	鈴木宗徳
ガイ・スタンディング著／池村千秋訳 『ベーシックインカムへの道——正義・自由・安全の社会インフラを実現させるには』	
スチュアート・ロー著／祐成保志訳 『イギリスはいかにして持ち家社会となったか——住宅政策の社会学』	平山洋介
<b>社会・労働関係文献月録</b>	
月例研究会 Political Imagination of the Diasporic Korean Radicals in the Post Colonial Period	クリス・パーク
所報	2018年3月

2018年8月号 No.718

<b>【特集】労働者派遣法改正と派遣労働の現状</b>	
特集にあたって	大槻奈巳
派遣労働者の選別機能としての「直接雇用」転換と労働者の選択	江頭説子

派遣労働における旧「専門業務」の現状と課題	鶴沢由美子
派遣労働の現状と課題——派遣労働者として働く人たちの自己概念に注目して	田口久美子
<b>■論文</b>	
有期雇用の日独比較	田中洋子
<b>■書評と紹介</b>	
Aya Hirata Kimura, <i>Radiation Brain Moms and Citizen Scientists : The Gender Politics of Food Contamination after Fukushima</i>	平林祐子
水沢不二夫著『検閲と発禁——近代日本の言論統制』	奥 武則
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 法政大学大原社会問題研究所叢書『戦時期の労働と生活』を読む	榎 一江
所報	2018年4月

## 2018年9・10月号 No.719・720

<b>【特集】 貧困と世論</b>	
特集にあたって	堀江孝司
メディアと生活保護に関する意識——ソーシャルメディアに焦点をあてて	阿部 彩
再分配反対論者はどのような人々か?——日本における貧困観	小田川華子
新聞報道に見る生活保護への関心——財政問題化と政治問題化	堀江孝司
報道者が考える“貧困ジャーナリズム”の21世紀の課題	水島宏明
イギリスの大衆メディアにおける貧困報道——連立政権下の福祉改革への影響を中心に	鈴木宗徳
<b>■講演</b>	
経済史研究と資料	武田晴人
<b>■論文</b>	
社会福祉法人の内部留保に関する一考察 ——高齢者・障害者・児童の主要3分野の横断的分析	國見真理子
<b>■書評と紹介</b>	
村上裕著 『中国・社会主義市場経済と国有企業の研究——鉱工業部門についての考察』	柴田 努
渡辺尚志編 『アーカイブズの現在・未来・可能性を考える——歴史研究と歴史教育の現場から』	清水善仁
法政大学大原社会問題研究所 2017年度の歩み	
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 戦間期移植産業の展開過程——西洋菓子製造業の事例	五十嵐千尋
所報	2018年5・6月

## 2018年11月号 No.721

<b>【特集】 賃金の決め方・上がり方——生活の視点から</b>	
特集にあたって	禹 宗 杭
歩合給における生活の検討とジェンダー——生命保険営業職を事例に	金井 郁
外資系企業における昇給査定と賃金の上がり方——生命保険会社の事例をもとに	垣塚 淳
アジアの賃金——「学歴別・熟練度別賃金」	禹 宗 杭
<b>■論文</b>	
1950年前後における先任権の日本への移植の試み ——ドッジ・ライン期の整理解雇に関する一考察	吉田 誠

<b>■書評と紹介</b>	
木下光生著『貧困と自己責任の近世日本史』	松沢裕作
松本伊智朗編『「子どもの貧困」を問いなおす——家族・ジェンダーの視点から』	丹波史紀
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 サービス経済と「快適さ」の構造——現代日本の鉄道空間から考える	根岸海馬
所報	2018年7月

2018年12月号 No.722

<b>【特集】ケアの脱家族化と子育て——親密圏の変容とリプロダクション</b>	
特集にあたって	後藤浩子
ジェンダー秩序の解体と新しい「家族」の創造	牟田和恵
「子ども・子育て支援新制度」に見る子育ての社会化の特徴 ——ヨーロッパの先行事例と比較しつつ	船橋恵子
子ども子育て支援新制度がもたらす保育の社会化と市場化——保育は誰のものなのか？	猪熊弘子
ケアの多元化と脱家族化	藤間公太
<b>■論文</b>	
北海道の優生保護法運用と精神衛生行政	舟津悠紀

<b>■書評と紹介</b>	
藤岡伸明著『若年ノンエリート層と雇用・労働システムの国際化——オーストラリアのワーキングホリデー制度を利用する日本の若者のエスノグラフィー』	長峰登記夫
堀川三郎著『町並み保存運動の論理と帰結——小樽運河問題の社会学的分析』	西村幸夫
法政大学大原社会問題研究所／榎一江編著『戦時期の労働と生活』	官田光史
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 1950年代の沖縄および日本本土における米軍司法をめぐる議論 ——「由美子ちゃん事件」と「ジラード事件」にみる日米沖関係史	井上 史
所報	2018年8月

2019年1月号 No.723

<b>【特集】ワーク・ライフ・バランスとは何か——各学問分野の知見と政策課題</b>	
特集にあたって	大石亜希子
社会学におけるワーク・ライフ・バランス	筒井淳也
経済学におけるワーク・ライフ・バランス	大石亜希子
経営学におけるワーク・ライフ・バランス	上林憲雄
家政学におけるワーク・ライフ・バランス	重川純子
産業保健学におけるワーク・ライフ・バランス	渡井いずみ
労働法学におけるワーク・ライフ・バランス	皆川宏之
<b>■論文</b>	
閉山交付金制度による炭鉱閉山の金銭補償とその配分 ——1960～80年代の北海道の事例を中心に	島西智輝
<b>■書評と紹介</b>	
桜井啓太著『〈自立支援〉の社会保障を問う——生活保護・最低賃金・ワーキングプア』	松本一郎
福岡良明著『「働く青年」と教養の戦後史——「人生雑誌」と読者のゆくえ』	小林直毅
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 非国民な女たち——戦時下の洋装とパーマネント・ブーム	飯田未希

所報	2018年9月
----	---------

## 2019年2月号 No.724

<b>【特集】大原社会問題研究所の創設——100年前の社会問題</b>	
特集にあたって	鈴木 玲
大原社会問題研究所と社会事業・福祉研究	藤原千沙
大原社会問題研究所の初期活動——百年史編纂にあたって	榎 一江
大正から昭和初期大阪の社会問題と大原社会問題研究所——工場問題を中心として	清水善仁
<b>■論文</b>	
特殊勤務手当をめぐる国立病院・療養所の労働組合運動 ——「俸給の調整額」の制度化とインパクト	西村 健
<b>■書評と紹介</b>	
金 英著『主婦パートタイマーの処遇格差はなぜ再生産されるのか ——スーパーマーケット産業のジェンダー分析』	禊あや美
太田和宏著『貧困の社会構造分析——なぜフィリピンは貧困を克服できないのか』	堀 芳枝
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 地方自治体の母子福祉事業と地域福祉	藤原千沙
所報	2018年10月

## 2019年3月号 No.725

<b>【特集】トランプ政権誕生とアメリカの労働運動、政治・経済状況の変化</b>	
特集にあたって	鈴木 玲
社会正義の闘いと右派の標的 ——公共部門労働組合とトランプ大統領就任	Charles Weathers ／鈴木 玲訳
アメリカ労働組合の構成と担い手の変化 ——産業、地域、人種・エスニシティの視点から	中島 醸
アメリカ労働史から捉えた「白人労働者」 ——「トランプ現象」を読み解くカギとして	南 修平
トランプ現象の経済的背景 ——ラストベルト3州の産業構造高度化と製造業労働者	山縣宏之
アメリカ労働政治研究サーベイからの「トランプ時代」への接近	篠田 徹
<b>■書評と紹介</b>	
西村健著『プロフェッショナル労働市場——スキル形成・賃金・転職の実態分析』	佐藤 厚
Elin Haugsgjerd Allern and Tim Bale eds., <i>Left-of-Centre Parties and Trade Unions in the Twenty-First Century</i>	大和田悠太
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 IALHI 第49回ミラノ大会について	榎 一江
所報	2018年11月